

令和元年6月18日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05200

研究課題名(和文)外国人大学教員の採用に関する国際比較研究

研究課題名(英文) A Study of International Academics' Recruitment in the International and Comparative Perspectives

研究代表者

黄 福涛 (Huang, Futao)

広島大学・高等教育研究開発センター・教授

研究者番号：60335693

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,100,000円

研究成果の概要(和文)：主な研究成果は以下の通りです。

まず、アンケート調査や聞き取り調査などを通して、年齢や、性別、学位、職階、専門分野、役割などの特徴、外国人教員は日本人教員と明確に異なることが明らかになった。次に、外国人教員の間で、少なくとも二つのグループに分けることができる。すなわち、中国人教員と韓国人教員からなっているグループ、アメリカ人教員とイギリス人教員から構成されているグループである。これらのグループは人口学的な特徴だけではなく、教員と研究への関心、学術的生産性、期待される役割などについて大いに違っている。いわゆる、日本の大学における外国人教員の多様化が進んでいる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

このプロジェクトの研究成果は、実証的な手法で日本の四年制大学における常勤外国人教員の特性や、学術的生産性、期待される役割、彼らが直面した課題などを明らかにしたことだけではなく、研究対象となる外国人教員が類型化されることにもなった。これらの成果を参考に、今後日本の四年制大学がもっと多くの外国人教員を誘致するかどうか、また誘致するとしたら、どのようなタイプの外国人教員を雇用すればよいか、外国人教員、特に若手教員や出身国が異なった外国人教員に対してどのような支援策を講じたらよいかについて、政策的示唆を提示することが可能となる。

研究成果の概要(英文)：Main findings of this project include: First, the demographic profile of international faculty differs from their Japanese colleagues; second, at least two broad types of international faculty could be identified, and which differ according to their size and professional roles within their institutions. Type I consists of both Chinese and Korean nationals; Type II is made up of both American and British faculty. The results imply that a diverse body of international faculty with varied demographics, identities, academic preferences and values has come into existence in Japanese universities; finally, in addition to teaching and research, international faculty are also strongly expected to take responsibility for undertaking any activities which cannot be accomplished by Japanese colleagues and helping enhance the international reputation of their universities.

研究分野：社会科学

キーワード：外国人教員 国際化 大学教授職

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

(1) 1990年代後半以降、社会や経済のグローバル化の進展に伴い、高等教育における国際的流動性が高まる中、欧米をはじめとする諸外国においては留学生数の拡大とともに、外国人教員の採用をめぐる新しい国際化戦略も開始されつつある。日本においても、文科省が平成12年度に「グローバル化時代に求められる高等教育のあり方について」(答申)を公表し、グローバル化の進展を受け、教員公募の対象を海外に拡大することなどにより、優秀な外国人教員の積極的採用を進めて教員構成の国際化を図る必要性が謳われた。近年、日本の多くの大学は、国際競争力向上と世界的に魅力ある大学の形成を目指し、研究力と教育力の強化を両輪に海外から外国人教員を引き付ける様々な改革の試みを進めている。

(2) しかし、QS World University Rankings や Times Higher Education 等における欧米主要諸国の世界トップ100大学と比較すると、日本の大学教員に占める外国人の比率が極めて低く、日本の大学教育と研究の国際的通用性は依然として低いと言わざるを得ない。にもかかわらず、外国人教員の採用に関する研究は、ほとんど進んでおらず、特に海外大学における外国人教員採用に関する比較研究は僅少である。日本の大学教育の国際的通用性・共通性の向上、とりわけ今後の日本の大学教員の国際化のあり方について探るうとする研究はあまり進んでいない。

#### 2. 研究の目的

本研究は、近年の外国人教員の採用を中心とする高等教育国際化に関する理論や学説を整理しつつ、イギリス、オランダ、オーストラリア、中国、韓国、シンガポール、マレーシア、香港における外国人教員の採用に関する政策レベル・機関レベルの取組状況、その特徴及び類型に関する比較的研究を行うことを通して、日本における外国人大学教員の採用に関する今後の改革方策に一定の知見を提示することを目的とする。具体的には、欧州、オーストラリア、アジア諸国・地域における外国人大学教員の採用にかかわる政策、国や機関レベルにおける雇用条件・支援体制を分析し、複数のケーススタディを行う。外国人大学教員の採用方法やその効果を検討することで、日本の大学における外国人教員採用の現状を明らかにしたうえで、特に進むべき方向性及び改革方策を示唆する。

#### 3. 研究の方法

本研究は、代表的な大学への訪問調査と共通項目を設定した質問紙調査とインタビュー調査による実態調査を通して、大学教育の国際的競争力の強化に向けた日本の大学における外国人教員の採用やその比率向上について戦略的な提言を行うことを目指すものである。

#### 4. 研究成果

(1) 近年来、中国をはじめ、韓国やシンガポール、オランダなどの大学における外国人教員が増加しつつある傾向が現れていると同時に、特に一部の研究大学ではその外国人専任教員数も拡大した。主な要因としては、グローバル的影響、国の推進政策、そして大学の質的向上、特に教員の研究能力の向上、国際的にその大学ランキングを高めるなどが挙げられる。しかし、事例研究からみると、トップ大学、研究型大学と地方職業型学院などによって、その背景が必ずしも同様ではないと思われる。また雇用されている外国人専任教員の動機などについて、従来の経済的理論(プッシュ・プル要因分析)のみでうまく解釈できないことがあるため、もっと広い視野に立って、社会文化理論、社会関係資本理論、ネットワーク論、マズロー自己実現理論、トランスナショナル論などを用いて研究を進めていく必要であることがわかった。

(2) 既存の日本人教員全体の属性と比較して、日本で実施された全国アンケート調査で示された外国人教員の顕著に異なった属性特性として、外国人教員は、若手教員が多いこと、人文・社会科学系専攻の教員が多いこと、期間の定まった雇用形態であること、の3点が明らかになった。また、外国人教員の国籍による特徴として、米国人や英国人は人文科学系の分野を、中国人や韓国人は自然科学系の分野を専門とする者が多かった。

(3) 日本の大学における常勤外国人教員のうち、大きく二つのグループに分けることができる。その一つは主に中国人と韓国人からなっている近隣諸国からの外国人教員である。もう一つのグループは米国人と英国人から構成されている英語圏諸国出身者である。この二つのグループには配偶者や日本語能力、日本の大学で働く理由、教育活動や研究活動への関心、所属機関における期待される役割、そして日本の国際化戦略への見方などが明確な違いがあることがわかった。

(4) 米国人や英国人を中心とした外国人教員は日本の現在の高等教育国際化の戦略に対してあまり高く評価していなかったが、全体的には、外国人教員は現在の雇用状況や、労働状況、専門職としての環境状況に比較的に高い満足度を表明しており、とりわけ日本の大学で働くことに強い意欲を示していた。

(5) 日本人教員はすべての研究業績項目について外国人教員よりは多いわけではない。また、全体的には、外国人教員の研究業績は日本人教員のそれよりは多いとは言えない。さらに、外国人教員の間では、中国人教員と韓国人教員の方が米国人教員と英国人教員よりは研究業績がはるかに多かった。

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 12 件)

1. Futao Huang, What are the challenges facing the Asian academic profession? Working Paper, No. 32, 査読有、2018、UCL Institute of Education, London
2. Futao Huang, International faculty at Japanese universities: their demographic characteristics and work roles, *Asia Pacific Education Review*, 19 (2), 査読有、2018、263-272
3. Xian Wu & Futao Huang, International Faculty in China: case studies of four leading universities in Shanghai, *Asia Pacific Education Review*, 19 (2), 査読有、2018、253-262
4. Futao Huang, Foreign faculty at Japanese universities: Profiles and motivations, *Higher Education Quarterly*, 73 (3), 査読有、2018、237-249
5. Futao Huang, Japan Weights the Value of Imported Academics, *Nature INDEX*, 2 August, 査読有、2018
6. Futao Huang, International Faculty in Japan, *International Higher Education*, No. 96, 査読有、2018、18-19
7. Futao Huang, International faculty in the natural sciences and engineering at Japanese universities: Their characteristics and perceptions, *Oyo Buturi*, 87 (12), 査読有、2018、940-942
8. Futao Huang, Who Leads China's Leading Universities? *Studies in Higher Education*, 42 (1), 査読有、2017、79-96

9. Futao Huang, International Academics in the Netherlands: Changes, Characteristics and Implications, *Higher Education Forum*, Vol. 14、査読有、2017、79-97
10. Futao Huang、The Internationalization of Japan's Academy across Research and non-Research Universities, *Journal of Studies in International Education*, 査読有、19 (4)、2015、379-393
11. Futao Huang, Changes in Japanese Academics' Teaching and Research, 1992-2011, *Studies in Higher Education*、査読有、40 (8)、2015、1485-1494
12. Futao Huang, Building the world-class research universities: a case study of China, *Higher Education*, 査読有、70 (2)、2015、203-215

[学会発表](計 15 件)

1. Futao Huang, Why and How American and Chinese Faculty Members Worked in Japanese Universities? IX International Conference of Higher Education Researchers, Moscow, Russia, 2018 年
2. 黄 福涛、大膳 司、外国人大学教員の採用に関する国際比較研究(2) 外国人教員を対象に実施された全国調査の分析結果を中心に、第 20 回日本高等教育学会大会、東北大学、2017 年
3. Futao Huang, International Faculty in Chinese Leading Universities: Who They are, What Role They Play? 7th Biennial Symposium: Educational Innovations in Countries around the World, Settle Pacific University, USA, 2017 年
4. Futao Huang, What are the benefits and risks of internationalization of higher education? 7th International Conference on World-Class Universities, 中国上海交通大学、2017 年
5. Futao Huang、International Faculty at Japanese Universities and Colleges: Preliminary findings from the 2017 national survey, 第 78 回応用物理学会秋季学術講演会、福岡市、2017 年
6. Futao Huang、International Faculty at Selected Chinese Universities: Their demographic portraits, motivations and academic work, The Sociological Review Foundation Seminar Series, the UK, 2017 年
7. Futao Huang, Institutional leaders' perceptions of internationalization of Japanese universities, Higher Education Reform, Hiroshima University, 2017 年
8. Futao Huang, Tsukasa Daizen, Yansong Kim, International Faculty at Japanese Universities: Who are they and what issues they are facing with? Higher Education Reform, Hiroshima University, 2017 年
9. 黄 福涛、亜洲高校国際教師 変化、課題と趨勢、中国教育発展戦略学会人材発展專業委員会、中国北京、2017 年
10. Futao Huang, An Analysis of International Faculty Members in Japanese Universities, International Symposium on Transnationalization of Higher Education in East Asia: Student/Faculty Mobility, Talent Competition and University Governance, Lingnan University, Hong Kong, 2016 年
11. Futao Huang, The International Mobility of Faculty Members: Focusing on the

Recruitment of International Faculty Members in Japan and China、The 17th International Conference on Education Research、Seoul National University、Korea、2016年

12. Futao Huang、The Internationalization of the Academy: Major findings from two international surveys、The First International Meeting on the Global State of Young Scientists in Africa、Mauritius、2016年
13. 黄 福涛・大膳 司、外国人大学教員の採用に関する国際比較研究(1) 日中の大学教員・職員へのインタビュー調査結果を中心として、第19回日本高等教育学会大会、追手門学院大学、2016年
14. Futao Huang、Foreign Faculty Members in Japanese Universities: Changes and Challenges、The 4th Higher Education Research Association Conference on “Equity, Employment, and Mobility in Asian Higher Education、The University of Hong Kong、2016年
15. 黄 福涛、International Mobility of Faculty Members: Changes and Trends、2016 同済高等教育国際化論壇会議、中国同济大学、2016年

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/06/ec6b8e0c3ed74d15250602b9d10a6721.pdf>

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：大膳 司

ローマ字氏名：(DAIZEN, tsukasa)

所属研究機関名：広島大学

部局名：高等教育研究開発センター

職名：教授  
研究者番号（8桁）：60188464

研究分担者氏名：杉本 和弘  
ローマ字氏名：(SUGIMOTO, kazuhiro)  
所属研究機関名：東北大学  
部局名：高度教養教育・学生支援機構  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：30397921

研究分担者氏名：米澤 彰純  
ローマ字氏名：(YONEZAWA, akiyoshi)  
所属研究機関名：東北大学  
部局名：国際戦略室  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：70251428

研究分担者氏名：李 敏  
ローマ字氏名：(LI, min)  
所属研究機関名：信州大学  
部局名：学術研究院人間科学系  
職名：講師  
研究者番号（8桁）：30531925

研究分担者氏名：李 明  
ローマ字氏名：(LI, ming)  
所属研究機関名：大阪大学  
部局名：グローバルイニシアティブセンター  
職名：特任助教（常勤）  
研究者番号（8桁）：50778107

研究分担者氏名：秦 由美子  
ローマ字氏名：(HADA, yumiko)  
所属研究機関名：関西外国語大学  
部局名：外国語学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：30263031

(2)研究協力者  
研究協力者氏名：渡辺 達雄  
ローマ字氏名：(WATANABE, tatsuo)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。